

法人名	社会福祉法人 くすの樹会
施設名	銀杏保育園／銀杏保育園胡桃館

発表者名 (職名)	佐藤 康仁 (副主任保育士)	住所	横浜市戸塚区秋葉町147-1／横浜市戸塚区吉田町3001-1		
発表者名 (職名)	林田 典子 (副主任保育士)	TEL	045-443-6677	FAX	045-443-6688
発表者名 (職名)		メールアドレス	kusunokikai_ginnan@yahoo.co.jp		
		URL	www.kusunokikai.ed.jp		
		定員	60名／44名	職員数	49名

発表の概要・内容

〈はじめに〉

銀杏保育園・銀杏保育園胡桃館では、3・4・5歳児の幼児については異年齢保育を行っています。異年齢保育での生活は、遊びや日常生活を通して子ども同士の多彩な人間関係を形成します。

〈テーマ活動について〉

私たちの園では、異年齢クラスの活動の中で、1つのテーマに沿って3・4・5歳児がそれぞれの発達課題やレベルに合わせて各々ができることで助け合い、協働していくことを、体験から学んでいけるようにしています。

これを『テーマ活動』と呼んでいます。このテーマは保育士が決めるのではなく、年長児（太陽さん）が“太陽会議”を通して意見を出し合い決定しています。

このテーマ活動が、子ども主体の遊びを展開し、作品展や発表会へと繋がっていきます。

〈エピソード：海の世界〉

①太陽会議

②太陽さんから月さん(4歳児)・星さん(3歳児)へテーマの共有

③“やってみよう”を形に ～試行錯誤を繰り返し～

④ひとりひとりの達成感

〈おわりに〉

大人主導でなく、子どもの素直な言葉を拾い集めていくことで、子どもにとってやらされる作業ではなく、ひとりひとりがやりたい遊びへと展開することができました。

子ども主体での活動は、この年齢になったからといって急に出来るようになったわけではありません。

0歳から『自分で選び、自分で決める』を積み重ねてきた経験や、年上の子たちから接してもらった経験や年長児への憧れから、年長児のようにやってみようという意欲を持ち真似してきたことや、真似の中から新しい発見や展開の幅が広がったり、異年齢保育ならではの活動の良さが活かされてきたのだと考えられます。

0歳から就学前までの繋がりを大切に、ひとりひとりのどのひとも丁寧に関わり、主体性を育てるような保育に臨みたいと思います。

メモ